



務であるとの先輩の言葉を受け、業務を引き継いだのがまるで昨日のことのように思われます。そして、その先輩方の築いた信用と信頼を基に、私は防犯セミナーの質と開催回数増に力を入れました。また、有能な講師を増やして主催者のニーズに応えることにも注力しました。

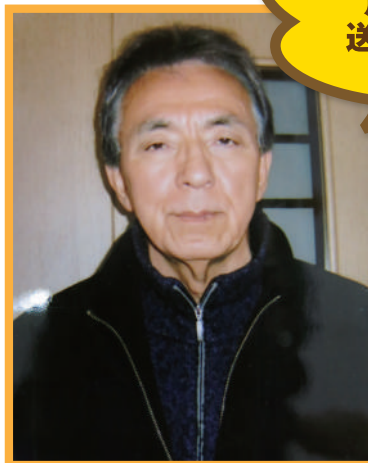
Y防協在職中、私の記憶に残る大仕事になったのは、小学生とその保護者や大学生に至る講演受講者に、悪質サイトへのアクセス体験をさせる防犯セミナーを成功に導くことができたことです。

学校関係者、教育委員会関係者らを読売東京本社へ招いてデモンストラーションを行うとともに、セミナー用に使った携帯電話の購入交渉もやらせていただきました。何度も何度も担当講師との打ち合わせを重ね、完成した体験型防犯セミナーの成功は、そのニーズを増加させました。同セミナーは、多くの関係者からお褒めの言葉を頂戴することとなり、Y防協に大きな成果をもたらすことができたと思っております。

5年間で私が担当した防犯セミナーは、160回を数えました。今後も多くの防犯セミナーが開催されることでしょう。Y防協で開催される防犯セミナーを聴講した人の数だけ、不幸な事件・事故が減りますことを、心から願っております。

卒業後、私は通学路に立つのが日課の一つになりました。「クルマが来たよ。気をつけて!」「右左、しっかり見てから横断歩道を渡るんだよ」。子どもたちの元気なあいさつが、私の元気の源です。「オハヨー!いざいあーすっ!」。

応援団として
声援を
送ります!



高橋 稔さん

元参与2013年退職/北海道警OB

Y防協が全国組織となつて10年になったそうですね。誠におめでとございませう。まずは、スタッフの皆さんに敬意を表するとともに、お祝いを申し上げます。

さて、私は、北海道警を退職後の5年間を読売新聞北海道支社で、Y防協の仕事に従事させていただきました。当時、北海道支社にはY防協事務局がおらず、入社直後、東京本社で研修を行い、防犯セミナーの開催手順などを詳しく教えていただきました。わずかな日数の研修でしたが、この東京行により、先輩参与たちと太いパイプを作ることができたことが、道内でのY防協活動を進めるうえで大きな力になりました。今も、初めて私が担当した防犯セミナー開催時の緊張と、その終了時の感動、感激を忘れることができません。

北海道支社で私が担当した防犯セミナーの開催回数は28回でしたが、開催日翌日の朝刊でセミナーの記事が掲載されたり、HP「ぼろはん日本」にもその様子がアップロードされるたびに、必ずと言っていいほど、関係者の皆さんから感謝の言葉をいただきました。地域貢献に微力ながら役立つことができた——と感じるひと時であり、もつと良いセミナーを作ろう!という私の仕事の原動力にもなりました。

Y防協を卒業してから、大雪の中でも、酷寒のときでも、新聞を毎日届けてくれるYCSスタッフの「当たり前」のようである「当たり前ではない」業務を淡々と継続していることの「凄さ」を感じることができました。きつと「待って、待っている人がいる」という強い責任感が、毎日新聞が配られることを「当然」のこととしているのだ、と思うようになりました。そうした責任感溢れるYCSの皆さんと、防犯活動を共にできたことを、いま誇りに思います。

いつまでも、私はY防協の応援団として声援を送り続けます。Y防協の皆さんのますますのご健勝とご発展を(北の大地より)お祈りいたしております。

